

6年『きらり☆健康西六 GO』

単元のめあて

大田区の健康に関わる方と連携して六郷地区の健康に関する課題について知り、それを解決するために健康に必要なことを調べ、地域に発信する。そこで得た声を地域に還元する活動を通して、情報収集の仕方や得た情報を整理・分析して相手に分かりやすく伝えるための知識及び技能を身に付け、試行錯誤しながら地域の健康課題を解決するとともに、主体的に取り組み、よりよい未来を創造しようとする態度を養う。

創造的な資質・能力を育成するための手立て

実社会で活躍する人との連携

専門家から、『健康』に関するお話をしていただき、地域の健康課題や健康な体づくりへの理解を深めるとともに、自分たちが地域の人々の健康のためにできることを考え、モニターの方に提案し、実践していただいた。その後、モニターの方からのフィードバックを基に、再度課題を設定し、解決のための話し合いをした。その際に、授業パートナーに相談したり助言をいただいたりして、試行錯誤しながら粘り強く取り組む態度を養った。

- ・大田区健康づくり課 健康づくり担当
- ・リハラボ BayWalking
- ・くどうちあき脳神経外科クリニック
- ・廣田由紀主任養護教諭
- ・岸美貴子栄養士

学習サイクルと振り返りの工夫

提案の準備をする段階では「課題解決について考える・調べる→話し合う→まとめる→発表する→アドバイスを受ける→練り直す」を繰り返した。学習の流れを示し、見通しをもたせることで、どのような準備をすればよいか考えながら、自分たちで計画的に学習を進められるようにした。

毎時間の振り返りでは「Y: やったこと」「W: わかったこと」「G: 疑問に思ったこと」「T: 次に取り組むこと」の視点で振り返りをしながら取り組むべきことを明確にした。オクリンクプラスを活用し、共同閲覧できるようにすることで、他グループの進捗状況を確認したり、書くことが苦手な児童が参考にして書きやすいようにしたりした。

グループの編成・話し合いの工夫

グループ編成は、意見を出しやすい児童、ICT活用が得意な児童など、それぞれの得意なことを発揮できるような5、6人組の班編成にした。

アイデアを出す段階では、ブレインストーミングを活用した。この手法では、出た意見を否定しないため、たくさんの意見を自由にすることができ、他者の考えに触れる機会も多いため、アイデアの幅を広げることができる。その後、KJ法を用いてアイデアをグループ化して整理し、課題を明確にし目的意識をもちながらよりよい意見や考えを精選していくことができた。

ICTの活用

「デザイン」では、西六郷地域の健康課題への解決方法を提案するために、「Google 検索サイト」を活用して情報を収集した。その情報を、「Google スライド」に分かりやすくまとめ、授業パートナーに提案した。次に、その提案内容が本当に効果的であるかを確認するために、モニター協力を募り、モニターの方への提案を「Google ドキュメント」や「Google スプレッドシート」を活用して作成した。

- ・Google ドキュメント……発表内容の原稿作成・モニターへの提案
- ・Google スライド……プレゼン資料の作成
- ・Google 検索サイト……課題解決方法などの情報収集
- ・Google スプレッドシート……チェックシートの作成、情報整理



成果と課題

- ・モニターからのフィードバックを基に、課題を見出し、解決に向けた話し合いができていた。
- ・話し合い活動の中に、専門家の大人が入ることで、話し合いが活発になったり、思考の整理ができたりと、課題解決の一助として効果的であった。
- ・地域の健康課題を解決するきっかけとして、モニターの方に協力していただいたことで、具体的な対象を意識した提案を考えたり、課題がより明確になり見通しをもって活動に取り組みたりしていた。
- ・児童が課題解決に向けて専門家にすすんでアドバイスを求めたり、質問したりするなど主体的に話し合うためには、前時の段階で課題をより明確にし、児童一人一人が自分なりの解決方法のアイデアをもっておくことがよかった。そうすることで、より活発な話し合いになったと考えられる。